

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第78回 仕事の5要素「QQCDR」

部下に仕事の内容ややり方を伝えるとき、求められる質・量・コスト・期限・規則をしっかりと伝え、共通認識を持つことが大事です。

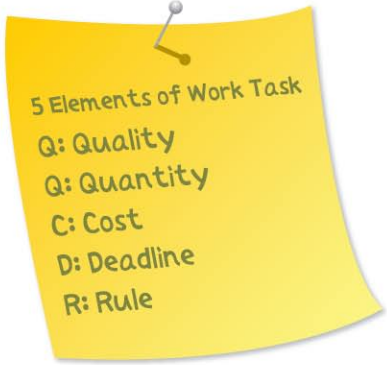
部下に仕事の内容を説明したり、仕事のやり方を伝えるとき、最も大切なのは、部下に分かるように伝えることです。こんな話をすると、「わたしは、部下に分かるように説明しているよ」と自信を持って言う上司もいるでしょう。しかし、それは「こんなふうに説明すれば、きっと部下も分かってくれるだろう」と勝手に上司が思っているやり方ではないでしょうか。部下には、ひかれるだけあまい

さを排除して、誰にでも分かる言葉で、疑問の余地のない方法で話をしてあげてください。
指示は分かりやすく
説明で共通認識を
ここで、わたしは「QQCDR」という、仕事の5要素というやり方を頻繁に使います。頭文字が表すのは、Quality(クオリティ・質)、Quantity(クオンティティ・量)、Cost(コスト)、「Dead

line(デッドライン・期日)、Rule(ルール)の5つです。部下に仕事を与えるときには、「どのくらいの量の仕事を、どんな質で、どのくらいのコストで、納期はいつで、このルールを守ってやる」という形で行うのです。さらに、その内容に「5W2H」(What/When/Where/Who/What/Why/How)、「How much(どのくらい)」という項目がきちんと含まれていれば、物事はより正確に伝わります。

このくらいはつきりとした指示、説明であれば、疑問を差し挟む余地がないので「上司と部下は共通認識を持つことができ、部下に不明点、あるいは不安な要素があったとしても、それがどのポイントなのかすぐに判断できるでしょう。
例えば、「このルールを守っている時間がかなり過ぎて、期日に間に合いません」とか、「この質をクリアするには、コスト面が厳しくなる可能性があります」など、焦点の合った会話が成り立つでしょう。

部下に分かりやすく説明



明をして、しっかりと共通認識を持つということ、上司の責任だということを忘れないでください。『上司のルール』より転載